

令和4年度事業報告書（概要版）

名称	社会福祉法人わかば会 法人本部	種別	障害福祉サービス事業
事業別 定員	就労継続B 30人、生活介護 110人 施設入所 60人、共同生活援助 23人 短期入所 6人、日中短期 6人	開設	1997年10月（法人認可）
所在地	新居浜市船木甲 741番地 1（本部）	職員数	148人（昨年比：-1人） （正規 73人、非正規 75人） ※R4年度末在籍数

【事業活動収入】

年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
法人全体	705,276	737,515	742,347

（単位：千円）

【人件費】

年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
人件費	439,013	461,427	471,895
人件費率	62.2%	62.5%	63.5%

（単位：千円）

【新型コロナウイルス感染拡大への対応】

令和4年度においても新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、様々な面で行事の中止や変更等の影響が出た。また、利用者および職員においても多数の感染者が確認され、くすのき園とグループホームではクラスターが発生した。衛生委員会を中心に、各事業所における感染状況の情報共有や物資、マニュアル、環境面等を協議・共有し、必要な事務連絡については本部および委員会を通して情報発信した。

昨年同様、様々な制限をしていかなければならない中において、社会的距離・心理的距離を意識した「柔軟な対応」を法人内に求め、入所施設においても緊急度の高い支援ケースにおいて柔軟な対応ができており、コロナ渦においても様々な工夫やアイデア（行事等）が見えた。

【令和4年度実施項目】

（1）新規建設・購入当（主な資産等）

①エール移転に伴う新築工事（入札）

昨年度、購入した本郷地区において、新築工事を着工（2022.11）

②わかば共同作業所における購入

駐車場が手狭になり、新たにわかば共同作業所近隣の農地を購入。（2023.2）

（2）法人本部機能の充実・強化

①労務・会計担当者において、事務機能の本部集約を目的とした意見交換会議（月1回）を実施した。担当者の業務を整理しながら、事業所間での労務事務における手順の違い、各種ソフトの契約等の課題について協議を重ねた。事務機能の一元化にむけて健康保健証の統一や給与支

- 給方法等、様々な課題が残っており、来年度以降も引き続き整理整頓作業が必要かと思われる。
- ②新型コロナウイルス対応において、法人間での連携（共助）を意識してもらえよう積極的にアナウンスし、法人内の情報共有・各事業所の連携強化を模索した。
 - ③各種委員会の運営において、横断的な事業間での連携と法人内組織での位置づけや委員会の役割を浸透させるために、本部としてサービス向上委員会等を監修することにより、第三者委員会への報告会を実施した。
 - ④法人単位で取りまとめるべき事項において、担当者間で情報を共有し対応した。

（3）施設経営の安定

- ①法人連絡会議における各事業所月例報告を用いることにより、法人内事業所の稼働率や収支状況を情報共有することにより、主要職員に対し、事業経営の把握、事業経営の安定にむけた意識付けや課題提起を図った。
- ②各起案においての予算計画を徹底させるようにアナウンスし、中期的な運営能力の育成の手段として、職員各々においてもコスト意識を持たせるようにした。
- ③各事業においての長期的なビジョンを具体化させ、施設整備における積立金の目標額について、長期収支計画を作成していく必要性があり協議を行ったが、今後具体化させていく必要性がある。

（4）人事および人材確保・定着・確保

- ①新型コロナウイルス感染拡大の影響により、人材の採用が困難であった。
- ②高齢労働者や中途離職者に対し、積極的に採用枠をPRし、HPや情報誌にて積極的に広報を行った。
- ③新型コロナウイルスの影響により、出勤できない職員に関し法人全職員を対象とした特例措置を発出し、家族の感染および濃厚接触、教育機関の休校や感染予防による出勤できない職員に対し対応を行った。
- ④職員の懲戒処分（3件）

（5）会議および行事等の開催について

- ①監事監査および定時評議員会をくすのき園において開催し、評議員による施設見学を実施。
- ②法人設立記念日において、合同表彰式と記念献立をくすのき園にて実施した。
- ③法人単位による第三者委員への報告会を実施。

（6）今後の課題

- ①人材確保と幹部職員の人材育成（法人理念の継承）
- ②次期グループホーム建設計画の立案
- ③勤怠・労務管理一元化へのシステム構築
- ④各事業における高齢化・重度化への対応と医療機関との連携
- ⑤定員が充足していない事業の利用促進
- ⑥SDGS活動への参加促進

(7) 理事会・評議員会の開催状況

開催日	開催会等名	審議等事項
5/12 (木)	監事監査	場所；くすのき園
6/1 (木)	理事会	令和3年度事業報告および決算の承認について 令和3年度監事監査報告について 理事の選任について 運営規程の改訂について エール移転に関する建設計画について 不動産の購入について 定時評議員会の招集について
6/23 (木)	定時評議員会	令和3年度決算の承認について 監事監査報告について 新役員（理事）の選任について 令和3年度事業報告概要について
10/19 (水)	第2回理事会	エール移転に関する建設工事に伴う契約締結方法並びに指名業者選定の件について (書面決議)
11/8 (火)	第3回理事会	研修・相談センター新築工事入札結果について 研修・相談センター新築工事契約手続きについて 不動産の購入について（わかば共同作業所） 新規グループホーム建設計画について（くすのき園） 予算執行状況について 業務用エコキュート取替工事について（くすのき園）
3/16 (木)	第4回理事会	令和4年度最終補正予算（案）について 令和5年度当初予算（案）について 令和5年度事業計画（案）について 主要人事（案）について 運営規程の改訂（案）について 評議員会の招集について
3/30 (水)	第2回評議員会	令和4年度最終補正予算（案）について 令和5年度当初予算（案）について 令和5年度事業計画（案）について 業務執行状況の報告

※書面決議に関する開催日は決議があったものとみなされた日を記載

(8) その他

- ①トルコ南東部のシリアとの国境付近を震源とする地震について、「わかば会トルコ・シリア地震救援金募金」を法人内にて実施し、日本赤十字社等による救援活動・復興支援を支援するため寄付した。

(実施期間) 令和5年2月22日(水)～3月8日(水)

(募金場所) 法人内各事業所

(寄付金額) 51,970円

令和4年度 事業報告書（概要版）

名称	わかば会研修センター	種別	人材育成機関
所在地	新居浜市萩生 1834-1	開設	平成30年4月1日
職員数	7人		

1 運営方針

昭和58年に障がいを持つ子供の親たちが立ち上げた、わかば会の謙虚で地道な地域に根差した活動の意思や理念や行動力を引き継いで、わかば会が地域社会に貢献する法人であり続けるために、研修センターでは人生の主人公となれる障がい当事者の育成、主体的で自立した職員の育成、共に支え合える地域作りを目指して、人と人との関係性作りに重点を置いて活動していく。

2 事業内容（実施報告）

（1）法人内研修

- ・新人職員研修（7/21～22：9名 12/1～2：8名 2/2～3：9名）
- ・わかば会実践報告会（3/10：68名 一部法人外からも参加）
- ・虐待防止研修（動画視聴 2月：全職員）
- ・防災研修（動画視聴 2月：全職員）
- ・相談支援研修（全5回：法人内の職員）

（2）講師派遣

- ・聖カタリナ大学 社会福祉学科 えひめの福祉（6/7：井川・尾鼻・中路・清家）
- ・新居浜市社会福祉協議会 福祉のお仕事講座（8/2：中村）
- ・新居浜特別支援学校小学部キャリア授業（12/5：井川・木村・小野弥・佐々木）

（3）その他

- ・研修センタースタッフ会議（7/6・11/29・1/24・2/21）
- ・職員の仕事と生活の両立を考えて、法人としてひめボス宣言（愛媛版イクボス）をした。

3 人材育成と職場活性化

新型コロナウイルス感染症の影響で集合研修や交流の機会が持てない時期もあったが、定期的な新人職員研修の開催やリモート研修を活用することで、次年度以降の職員のキャリア形成と研修の関連付けに繋げることができた。

4 地域との連携

社会福祉士、保育士の学生実習について感染症対策をしながら、法人として協力して受け入れを実施した。 社会福祉士（1名） 保育士（7名）

令和4年度事業報告書（概要版）

名称	わかば共同作業所	種別	生活介護、就労継続支援B型
所在地	新居浜市船木甲 741-1	開設	平成10年 7月 1日
定員	生活介護 15名、就労継続支援B型 15名	職員数	正規 6人 臨時 10人
利用率	生活介護 11.5人 就労継続支援B型 12.8人	入退所	0人

1 運営方針

わかば共同作業所は、利用者個々のニーズをくみ取り、利用者の生活が作業所を通して豊かになるよう支援を行う。「生活介護」では基本的に高齢化と重度化に対応した生活支援を行い、安心して過ごせる居場所となるよう支援する。「就労継続支援B型」は、作業を中心に支援を行い、やりがいや工賃を貰う喜びを感じてもらえるよう支援する。

2 事業内容（実施報告）

平均利用率：生活介護 11.5人（令和3年度 11.3人） 就労継続支援B型 12.8人（令和3年度 12.4人）

契約利用者数：生活介護 15人（男性8人・女性7人） 就労継続支援B型 16人（男性11人・女性5人）

利用者平均年齢：生活介護 44.6歳 就労継続支援B型 46.3歳

開所日数：260日（令和3年度 253日）

平均工賃：令和4年度 10,464円 令和3年度 9,953円 令和2年度 10,796円

*新規利用者の獲得が出来なかったことと、週5日利用できていた利用者の欠席が目立ちようになり、平均利用率が伸びなかった。欠席者に対する働きかけも行ったが、十分なものとは言えなかった。

(1) 生活介護

活動内容：作業（ワグ箱折り、鈴木加工、ドコモチラシ折り、段ボール組み立て）、創作、余暇、散歩等
高齢化、重度化を考慮した活動を取り入れる。

- ・体力維持の為、散歩を毎日の日課に取り入れた。生活リズムがつき、情緒面の安定にもつながった。
- ・リハビリ、足浴、口腔体操を定期的に取り入れ、機能維持を図った。
- ・利用者の方に合わせた作業も行い、一日の活動にメリハリを持たせた。

(2) 就労継続支援B型

活動内容：パン製造・内職（加藤産業段ボール、アヒ加工シーツ折り・ウェットティッシュ・付箋、ワグ箱折り等）

クリーニング（空間屋：学生服・体操服の洗濯・市役所管財課：シーツの洗濯）

やりがいを感じてもらえる作業を提供する。

- ・作業は切らさないように、内職業者に仕事を依頼した。
- ・ベーグル・シフォンは、法人内事業所以外に、あゆみ苑と新たに新田保育園へ販売した。販売は、利用者の方の楽しみにもなっている。ベーグル等を作る工程に利用者に関わることも増え、やりがいに繋げていった。シフォンは、好評で個別での注文も入るようになった。

(3) リスクマネジメント

・事故報告書…2件 ・ヒヤリハット報告書…63件 ・文章苦情…2件 ・口頭苦情…11件

・ヒヤリハット、文章苦情が以前に比べ、上がるようになってきた。夕礼、職員会等で報告し周知している。

(4) その他

GH関連：ひまわり寮で利用者がコロナに感染した際やこんぺいとう職員が不足している際に作業所職員が支援に入り補っている。作業所職員が、利用者の病院受診の同行をする回数が増えてきており、今後の課題である。

3 人材育成と職場活性化

職員 16人：平均年齢 51.1歳 入職：臨時 2名 退職：正規 1名 臨時 1名（支援員 2人）

職員会でグループ協議をする場を設け、意見交換ができやすい環境づくりを行った。

4 地域との連携

地域へ『わかばトピック』の配布を行い、作業所の活動内容を知ってもらった。

自治会の清掃に参加をした。

新居浜特別支援学校との交流を図った。（学生の体験受け入れ、ベーグルの訪問販売等）

令和4年度事業報告書（概要版）

名称	わかば第2作業所	種別	生活介護、就労継続支援B型
所在地	新居浜市船木甲2114	開設	平成19年4月1日
定員	生活介護15人・就労継続支援B型15人	職員数	正規9人（内2人育休中）・非正規11人
利用率	生活介護16.9人 就労継続支援B型11.3人	入退所	入所 無し 退所 就労継続支援B型1人・生活介護1人

1 運営方針

わかば第2作業所は、利用者個々のニーズをくみ取り、利用者の生活が作業所を通して豊かになるよう支援を行う。「生活介護」では基本的に重度化に対応した生活支援を行い、安心して過ごせる居場所となるよう支援する。「就労継続支援B型」は、作業を中心に支援を行い、やりがいや工賃を貰う喜びを感じてもらえるよう支援する。職員は、作業所での活動が利用者の生活の一端を担っている事を想像し、支援を行う。

2 事業内容（実施報告）

開所日数：260日（令和3年度 253日）

平均工賃：令和4年度 8,107円 令和3年 9,128円 令和2年 8,755円

(1) 生活介護 契約利用者 20人（男性13人・女性7人） 平均年齢33.6歳

活動内容：作業…内職（ハタダ箱折り、缶潰し、板目表紙、段ボール等）、創作、菓子販売・納品、散歩等
作業：後半依頼が増えた。個々に合った作業内容を提供した結果、集中し作業を行えた。

また、散歩も積極的に取り入れ、気分転換や体力作りを行った。

お菓子の販売・納品：本年度もコロナ禍で、販売には参加出来ず、納品だけを行うことが多かったが、ドライブを兼ねた納品も行えた。

リハビリ：理学療法士（PT）が月1回来所。その際、PTから各自に合わせた体操などを教わり、職員でも毎日行えるようになった為、日々の活動に取り入れる事ができた。

(2) 就労継続支援B型 契約利用者 14人（男性9人・女性5人） 平均年齢 40.5歳

活動内容：菓子製造、内職（アサヒ加工シート折り、ハタダ箱折り、鈴木加工等）

菓子製造：コロナ禍で、直接販売は数少なかったが、一般の方に直接買いに来て頂いたり、定期的な注文や大口の注文をもらうことが出来た。法人内からの利用も沢山あった。また来夢通信等も好評で、クリスマスやバレンタインなどイベント用の詰め合わせを考え、販売を行った。

菓子作りは、利用者が一人で行える工程が確立されている。

内職：シート折りは丁寧に出来ており、業者からも信頼を得ている。また、作業開始時間を決め準備を整えることで作業収入も増えた。箱折等は個々に合う作業内容を提供し、集中して作業に取り組んでいる。

(3) リスクマネジメント ・事故報告2件 ・ヒヤリハット41件 ・口頭苦情10件 ・要望2件

・ヒヤリハットが多く出るようになった。 ・口頭苦情が多かったが1件1件真摯に対応した。

(4) その他

GH関連：GH職員が満たない時は、利用者の生活に支障がないよう作業所の職員が支援に入った。

コロナ禍：本年度も行事や外出が制限された1年だった。日中活動は、感染予防をしながら、基本、少人数で行った。旅行や新年会など全員が一堂に集まる行事は中止としたが、職員が話し合い、それに代わるものとして少人数での外出やお楽しみ会などを工夫して行った。

5 人材育成と職場活性化

職員20人（内育休中正規2人）：平均年齢47.4歳 平均勤続年数6.3年 入職：臨時1名 退職：職員1名

来夢通信の作成や注文販売、新商品開発、作業の見直しなど利用者と共に頑張り、徐々に収入回復出来てきた。

職員間で話し合う時間を作りより良い支援に繋がるようにした。

6 地域との連携

機関紙『風になりたい』の配布やお菓子の販売、来夢通信、ホームページなどで活動内容を知ってもらった。自治会の会合や清掃活動に積極的に参加した。

令和4年度事業報告書（概要版）

名称	ケアホーム こんぺいとう	種別	介護サービス包括型共同生活援助
所在地	新居浜市船木甲3760番地の1	開設	平成25年4月1日
定員	7人	職員数	3.6人（臨時13人）

名称	かりんとう	種別	介護サービス包括型共同生活援助 短期入所
所在地	新居浜市船木甲3756番地の1	開設	令和2年10月1日
定員	介護サービス包括型6人・短期入所1人	職員数	3人（臨時8人）

名称	ひまわり寮	種別	外部サービス利用型共同生活援助
所在地	新居浜市船木甲3756番地の1	開設	平成15年10月1日
定員	4人	職員数	1人（臨時3人）

1 運営方針

グループホームが、利用者にとって、安心してくつろげる生活の場所となるよう支援をする。

バックアップ施設である「わかば共同作業所」「わかば第2作業所」の職員と連携、協力し、日中の活動の場と暮らしの場がかけ離れたものにならないよう支援を行う。

短期入所は、在宅で困っている方が安心して利用できる場所となるよう環境を整え、受け入れを行う。

2 事業内容（実施報告）

①利用者ニーズに応じたサービスの提供

こんぺいとう利用者2名、かりんとう利用者1名が、親の体調等により土日の帰省が無くなり、365日利用するようになった。それに合わせた職員を配置し、利用者の支援を行った。

かりんとう（短期入所）：コロナが落ち着いてきたため、短期入所の受け入れを保護者会等で周知した。
今年度2名の利用があった。

②健康管理および健康促進

日常の健康チェック（血圧、体温、排泄状況など）を継続している。

利用者の病院受診に作業所の職員が同行し、病状説明や服薬管理を行っている。今年度は、7名の方の病院同行を行った。

病気に合わせた特別食を必要な方には個別に提供している。

ひまわり寮：利用者がコロナウイルスに感染した際は、世話人が高齢の為、作業所の職員が対応を行った。

③家族支援

かりんとう：年末に写真と文章で生活の様子をお伝えした。

ご家庭の様子を聞きながら、事業所で協力できるところは協力できるよう情報共有するように心がけた。

3 人材育成と職場活性化

GHと作業所での引継ぎノートを活用し、情報共有を図った。

GHの職員が満たない時は、利用者の生活に支障がないよう作業所の職員が支援に入っている。

4 地域との連携

自治会活動（主に清掃）へ参加し、地域との繋がりをもつように努めた。

令和4年度事業報告書（概要版）

名称	わかば会相談部門	種別	委託・指定相談支援事業（生活支援センターわかば） 障がい者就業・生活支援センター事業
所在地	新居浜市政枝町 2-6-42	開設	令和4年4月1日開設
職員数	10人		

1 運営方針

障がいのある人の生活や仕事に関する様々な相談を受け、本人やその家族のニーズに沿った支援を行う。また、関係機関と連携し、情報共有に努め、利用者のライフステージに合わせた豊かで自立した人生が送れるように支援していく。

2 事業内容（実施報告）

<エール>

- ・相談支援件数:5312件・就職件数:61件・職場実習 52件・事業主相談件数：2477件
- ・主任職場定着支援実績：事業主への助言：43件、困難事例：451件、対象企業 32社
- ・西条市サテライト相談：10回（身体3人 知的10人 精神4人 合計17人）
- ・マッチング支援事業企業見学会/四国中央市 マルウ接着(株)：参加関係機関 6社 6名
- ・西条市就労支援部会企業見学会/瞳スチールワークス(株)：参加関係機関 5社 12名
- ・西条市合同就職面接会/企業 8社、応募者 17名、内定 5名
- ・新居浜市合同就職フェア/企業 10社、応募者 29名、内定 5名
- ・愛媛県一般就労障がい者ピアサポーター養成事業 4回実施（参加者 5名、法人より 2名）

<生活支援センターわかば>

- ・「市町村障がい者等相談支援事業」・サービス利用等に関する支援：373件
- ・健康、医療に関する支援：227件・生活技術に関する支援：383件・権利擁護に関する支援：52件
- ・「計画相談支援」・契約者数（者）：247名・（児）：113名・新規（者）：6名・（児）22名
- * 新型コロナウイルス感染者発生時には法人内事業所に対して協力体制をとることができた。
- * クレームやヒヤリハットを書面で報告して改善につなげることができた。
- * 地域課題として若年層の相談が増加した。他、計画相談に於いては新規受け入れが難しい状況だった。

3 人材育成と職場活性化

- ・法人内の相談部門統合によりワンストップ窓口として迅速な対応ができた。
- ・次年度に予定されている事務所移転に向けての準備を進めた。
- ・余暇支援や研修会、実習生指導等を通して法人内外での交流がはかれた。
(法人内相談員研修・社会福祉士、保育士実習生の受け入れ)

4 地域との連携

- ・新居浜市はたらく部会、相談支援部会、こども部会、総合相談窓口、西条市就労支援ネットワーク会
- ・西条市障がい者自立支援協議会委員、松山聾学校および新居浜川西分校キャリア教育推進協議会委員
- ・新居浜特別支援学校および今治特別支援学校求職受理相談・えひめ障がい者就労支援セミナー・キャリア
- ・企業向け雇用促進研修会（タオル美術館国安センター、桑原運輸(株)）・住化パートナーズ保護者懇親会
- ・愛媛県作業療法士会 高次脳機能障がい研修会・福祉のお仕事講座（新居浜市社協）

令和4年度 事業報告書（概要版）

名称	グループホーム オリーブ	種別	介護サービス包括型共同生活援助
定員	6人	開設	令和元年6月1日開設
所在地	新居浜市萩生 1724-1	職員数	正規2人 臨時5人
利用率	5.7人	入退所	なし

1 運営方針

生活の場として住む人たちが作り出すグループホーム。そこで働く人も穏やかで、また訪れる人にとっても楽しみとなる地域と関わりのある住まいづくりを目指す。

2 事業内容（実施報告）

（1）生活の質の向上

新型コロナの影響でホーム外との交流が制限される時間が長かった。そのような状況の中でも入居者の可能性を広げるため、個々の障がい特性の理解や丁寧な介護に努めた。

* ホームの中で行動障害や重度の身体介助に関するスキルを習得する必要性を強く感じた。

（2）家族・日中活動事業所との連携

新型コロナ感染症対策を実施しながら、保護者との面会や外出を実施した。新たに法人内の日中活動事業所を利用することで、入居者の生活に拡がりができた。

（3）健康管理

入居者の日々の食事、睡眠、排泄等の生活習慣を整え、家族や看護師、医療機関と連携しながら健康管理に努めた。新たに近隣の医療機関と協力体制をつくり感染症発生時には迅速に対応することができた。

（4）余暇支援

コロナ感染症対策しながら、ドライブ、外出、買い物、外食、誕生日会、季節のイベント等さまざまな余暇を提供できた。

（5）施設整備計画の作成

隣接地での2棟目建設に向けての計画を作成した。

3. 人材育成と職場活性化

- ・感染症発生時期にくすのき園に入職した新人職員が個別の介護や生活支援を学ぶ場となった。
- ・感染者、濃厚接触者の発生や職員個々の事情さらには労災（年間5件）の発生等により勤務体制の確保が難しい中でも、職員同士で助け合って乗り越えることができた。

4. 地域との連携

グループホーム周辺へのチラシ配りや散歩を通して地域との繋がりができ、ご近所の方と継続して信頼関係を築けた。

令和4年度 事業報告書（概要版）

名 称	障がい者支援施設くすのき園	種 別	障害者支援施設
定員	施設入所 60人 生活介護 60人 短期入所 5人 日中短期 6人 (施設入所待機者 129人)	開 設	平成6年4月1日開設 平成16年4月1日指定管理 平成26年4月1日移管
所在地	新居浜市萩生 1834-1	職員数	正規 40人 臨時 19人
利用率	施設入所 54.9人 生活介護 61.1人 短期入所 2.6人 日中短期 0.1人	入退所	入所 1人 退所 3人

1 基本方針 利用者が主人公の法人理念のもとに、内にも外にも開かれた施設運営に努める。

2 事業内容（実施報告）

(1) 施設入所 *3月末入所者数 55名

新型コロナウイルス感染症対策のため、4つの棟単位での生活支援を中心に行った。施設内で2度クラスターが発生したが、協力医療機関とも連携し、利用者・職員ともに協力し合って乗り越えることができた。健康的な食生活を維持するための計画的な栄養マネジメント体制を整えた。

(2) 生活介護 *新規契約者 3名

感染症対策のためや高齢化や重度化に伴い生活支援や身体介護に比重を置いた。計画に基づいたリハビリテーションを実施した。日中活動については量的にも質的にも充実できなかった。

(3) 短期入所・日中短期 *新規契約者 4名

感染症対策のため受け入れ状況は限定されたが、緊急時等には関係機関と連携して対応できた。

(4) 保護者との協同・対話

面会や外出の制限が長期化した中でも、電話や面談等で利用者の現状に関する説明や対話を重視した。保護者会総会に合わせて成年後見制度に関する学習会を実施して制度の利用促進をはかった。

(5) 行事・余暇活動

エール1階に職員を配置したことで日中有効活用できるようになり、余暇活動の幅が広がった。施設内での行事だけでなく、3月には久しぶりの外出行事を行うことができた。

(6) 事故・苦情

・事故報告書…36件（行政事故報告11件）・ヒヤリハット報告書…384件

・苦情…5件（口頭苦情…2件）・労災事故（8件）

(7) 建て替えに向けた準備

建て替えに向けての会議をひらき、建て替えの必要性について各職員で確認しあった。

(8) 高齢化への対応

往診や訪問診療できる近隣の医療機関との協力体制の構築。高齢介護の専門家を招いての研修会の開催。生活支援員の喀痰吸引研修の受講。

3 人材育成と職場活性化

コロナ対策としての法人職員向けの様々な特例措置等を活用しながらコロナ禍における人材の定着に努めた。新人職員の教育方法については引き続き検討していく必要がある。

*職員採用 正規：5名 臨時：2名 *退職 正規：2名 臨時：3名

4 地域との連携

感染症対策のため交流機会は限られたが、且之上自治会館での健康学習会に参加することができた。

令和4年度 事業報告書（概要版）

名 称	[e n]	種 別	生活介護
定 員	20人	開 設	令和元年 11月 1日開設
所在地	新居浜市岸の上町1丁目14-37	職員数	正規3人、臨時6人
利用率	生活介護 13.6人	入退所	入所10人 退所1人

1 運営方針

法人理念である「利用者が主人公」を基本に日中活動を通して利用者それぞれの個性を多角的な視点とアイデアにより引き出す・深める・広げるサービスの提供をおこなう。また、移り変わる利用者ニーズに応じてサービスの提供ができる事業所づくりや、地域のなかで価値ある活動ができる地域から必要とされる事業所づくりをおこなう。

2 事業内容（実施報告）

（1）利用の促進と収支の改善

*定期的に相談支援専門員や関係機関と連携をはかり、地域におけるニーズ把握と働きかけを行い定員の充足や利用率の向上に努め、新規契約者数2～3名を目標とする。

- ・平均利用者数 13.8名（前年度9.3名）
- ・年間契約者数(10名)
- ・年間見学者数(21名)
- ・体験利用者数(2名)
- ・感染症対策のため他施設で利用制限を受けた利用者の緊急受け入れ(5名)

*ワークショップを2～3ヵ月に1回程度開催し、事業所サービスをPRして興味をもってもらおう

- ・感染症で未実施だが、事業所の活動を数多くの方に知ってもらう機会として広報誌の発刊を開始。

*特別支援学校と情報共有を行い、年2回の現場実習や卒業後の受入れを行っていく。新規契約者数2～3名を目標とする。

- ・特別支援学校実習生受入れ(4名)
- ・卒業生契約者数(4名)

（2）提供サービスの質の向上

*日中活動提供において職員によって内容のバラつきを最小限にすることを目的に活動はスキルを共有し定型化を行う。

- ・活動アイデアを視覚化し、各担当で計画立案するように改善を行う。サービス全体を見直しして既存で良いものは残し、新しいものを取り入れていく必要がある。
- ・利用者からの要望や苦情、サービスの質の向上を目的に話し合う場を定期的に開催。

3 人材育成と職場活性化

（1）*職員関連

- ・非常勤採用(3名)
- ・育児休暇(1名)

（2）*実習及び研修の実施

- ・研修センター及び法人委員会主催研修(4回)
- ・愛媛県主催研修(3件2名)
- ・職員会議の中で学習会開催(8回)
- ・保育実習生受入れ(2名)

4 地域との連携

（1）泉川校区で開催された泉川公民館まつりに感染症対策を実施しながら初参加。

（2）泉川中学校で開催された職場体験に参加し、2名の中学生が体験。